



第5回キャリア教育アワード コーディネーター部門



NPO法人 アスクネット

名古屋市熱田区沢下町8-5
TEL 052-881-4349 FAX052-881-5567

E-mail info@asknet.org
<http://www.asknet.org>



アスクネットについて

《アスクネットミッション》

子どもたちは、実社会とつながる学びの中で、様々な人々・事柄と「出会い」、それらをきっかけにして何かに主体的に「挑戦」することで、感動が生まれ、成長していきます。

子どもたちの成長に、地域市民が積極的に関わることで、子どもたちはまちに関心を持ち、関わる大人も共に成長していきます。人のつながりのなかで、人は成長し、人の成長がまちを元気にしていく。そんな「学び合いのコミュニティ」を創りだすこと。

それが、アスクネットの使命です。

私たちは、この新しい教育モデル「市民参加の教育づくり」をより多くの人に広げていこうとしています。



■ 沿革 ■

1999年 6月	教育イベント支援事業開始
2000年 7月	市民講師ナビ事業開始
10月	特定非営利活動法人(NPO法人)格取得
2006年 4月	教育CSR事業開始
2007年 11月	第5回パートナーシップ賞受賞(アイシン環境学習プログラム)
2008年 2月	愛知環境賞優秀賞受賞(アイシン環境学習)
2009年 3月	経済産業省ソーシャルビジネス55選に選定
2009年 11月	第7回ハイ・サービス300選受賞

■ 主な事業実績 ■

2004~06年	文部科学省地域子ども教室「安城まちの学校創設」
2005~07年	経済産業省地域自律・民間活用型キャリア教育プロジェクト (瀬戸市にて商工会議所と連携した体系的なキャリア教育)
2006年	高浜市「たかはま夢・未来塾」 「たかはま子育て子育て応援園養成講座」
2006~07年	トヨタ自動車株式会社 子どもとアーティストの出会い
2006年~	アイシングループ「アイシン環境学習プログラム」開始
2008~11年	経済産業省キャリア教育民間 コーディネーター育成・評価システム開発事業
2009~11年	愛知県人材育成コーディネーター事業
2010~11年	内閣府地域社会雇用創造事業ソーシャルビジネス エコシステム創出プロジェクト「SBインターンシップ事業」
2011年	産学協働教育を通じた中小企業の魅力発信事業
2011~12年	名古屋市協働コーディネーター等業務委託事業
2012~13年	キャリア教育コーディネーター活用事業



社会人講師の
コーディネート



教育CSR
アイシン環境学習
プログラム等



大学生PBL
インターンシップ等
コーディネート



高校生インターン
シッププログラム

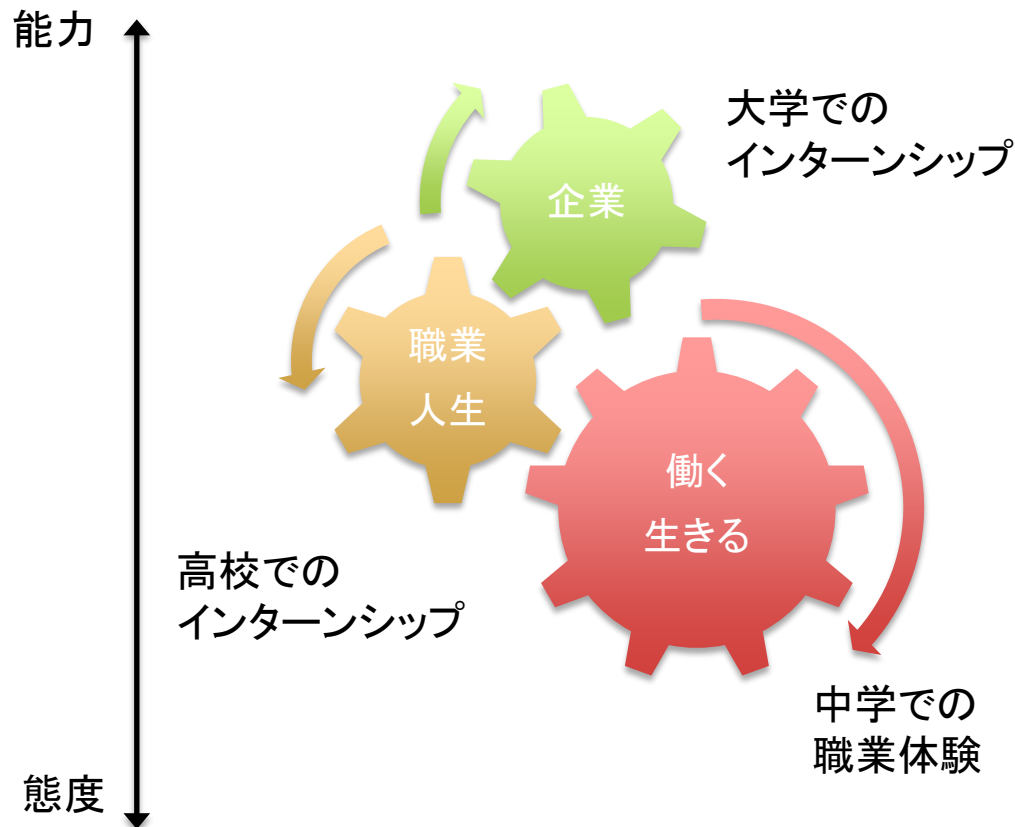


小学生から大学生までを対象にした
キャリア教育プログラムをコーディネート

なぜ高校のインターンシップなのか？

【職場体験・インターンシップ】

生徒が職場で働くことを通じて、職業や仕事の実際について体験しながら、働く大人と接する学習活動。



実施までの経緯

- ①2000年～高校
(職業・生き方講座)
- ②2005年～中学
(職場体験前の事前事後学習)
- ③2006年～大学
(実践型インターンシップ)
- ④2009年～11年 高校
(県と協働でキャリア教育の推進)

学科や学校によってインターンシップの取組み状況が大きく異なる。

2010年～
どの学校の生徒でも参加できる公募型のインターンシップを開発・実施
(県の事業終了後の2012年からは自主運営)

インターンシップによる企業・学校現場の変化

【課題】

- ・生徒に何をさせて良いか分からない
- ・受け入れの負担が大きい(インターンシップ疲れ)
- ・愛知県ならではの社会課題や特色に目が向けられていない

地域・企業

【解決サポート】

- ・インターンシップに協力いただいた受入先の事例からノウハウ、プログラムを提案
- ・業界や社会の今後を見越した受入先の開拓、プログラムの実施

学校現場

- ・教員の時間確保、ノウハウの取得が困難
- ・生徒の実施時間の確保が困難
- ・受入先の種類が少なく、継続されてもマンネリ化(普通科では看護&保育以外の業種が乏しい)

- ・受入先の確保と教員のサポート
- ・希望に添ったプログラムの開発
- ・社会、企業、学校、生徒の4つの目線により受入先を検討・開拓

【コーディネーターの存在価値】

コーディネーターが何度も事業所に足を運び、プログラム設計や生徒の様子などを丁寧に伝えていくことで、事業所内での生徒の受け入れ体制が生まれる。それにより、インターンシップのイメージが変わり、取組みに前向きな事業所・学校を増やすことにつながっている。

県内公募型インターンシップ

県内の全高校を対象にした、自分で決断し挑戦する
公募型インターンシップ



【プログラムの特徴】

- ・学科、学年、参加動機を問わずどんな生徒でも申し込みが可能
- ・市民、企業、団体からの寄付にて運営
- ・コーディネーターが事前事後学習から担当生徒の成長をサポート

【コーディネート実績】

生徒数：64名

学校数：24校

受入先：32カ所

法律事務所、ブライダル、IT企業、
アパレル、新聞社、動物病院、
伝統地場産業、観光業、建設業等

寄付者：約400名



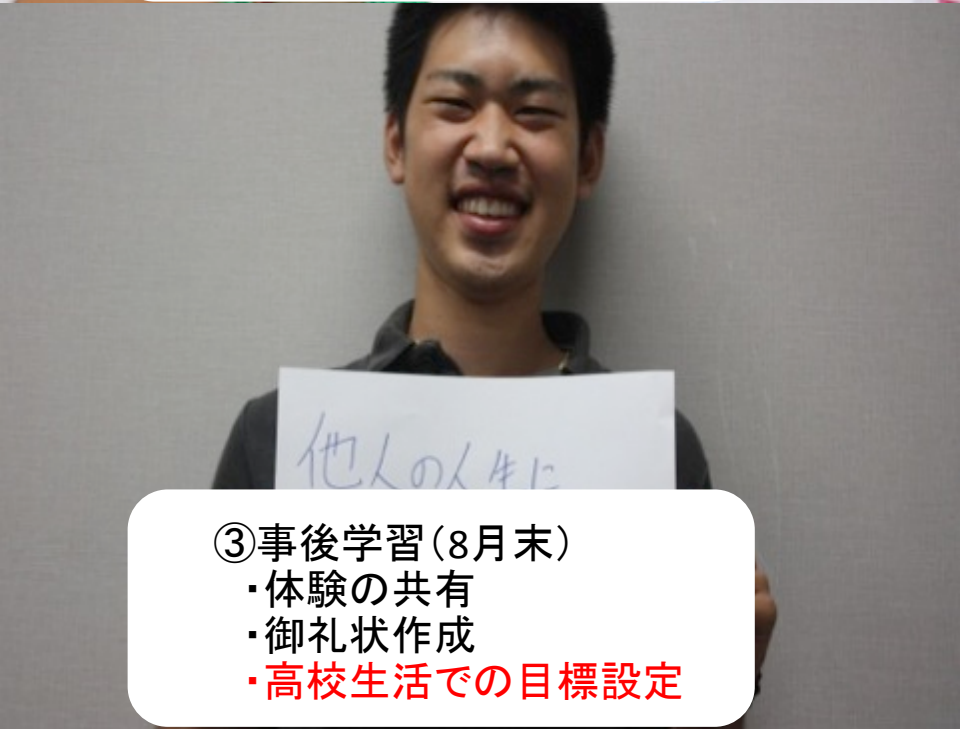
①事前学習(7月下旬)

- ・マナー研修
- ・インタビュー学習
- ・目標設定



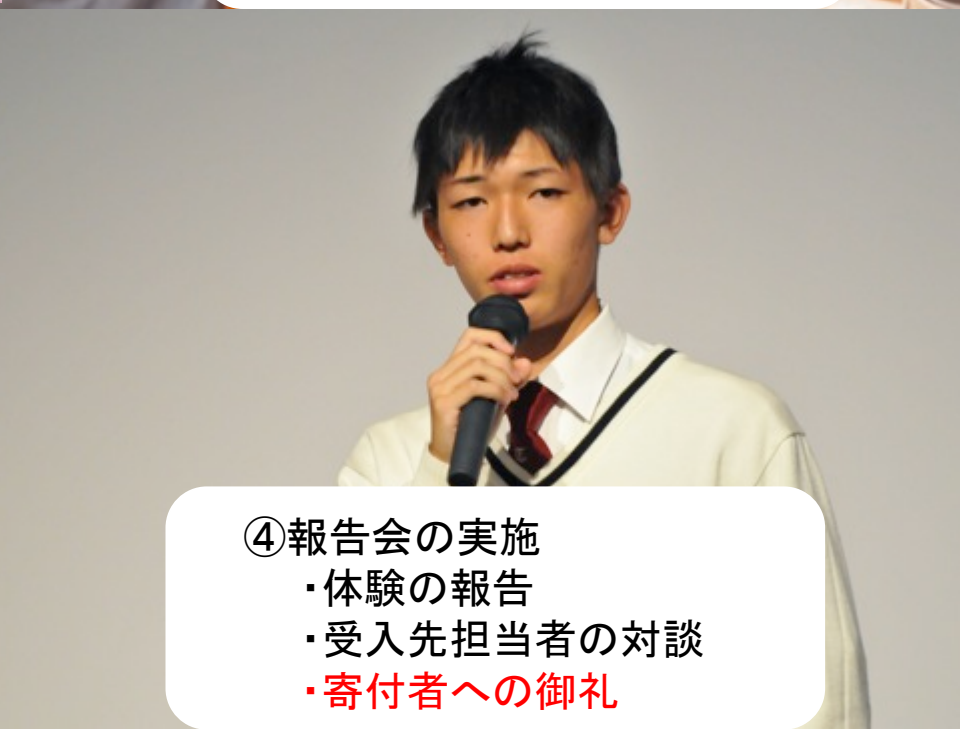
②インターンシップ実施(8月)

- ・他校の生徒とチームになり体験
- ・日報記入
- ・インタビューの課題



③事後学習(8月末)

- ・体験の共有
- ・御礼状作成
- ・高校生活での目標設定



④報告会の実施

- ・体験の報告
- ・受入先担当者の対談
- ・寄付者への御礼

学校単体型インターンシップ

学校の授業時間・課題・生徒の実状に対応して実施するインターンシップ

【プログラムの特徴】

- ① プログラムテーマの設定
教員との意思疎通・課題の共有
- ② プログラムの設計と支援体制の構築
教員の想いをプログラムにして、
外部との協力体制を構築する
- ③ 課題解決型の体験と事前事後学習
目的意識を高める事前・事後学習
主体性を持って取り組む
課題解決型インターンシップ



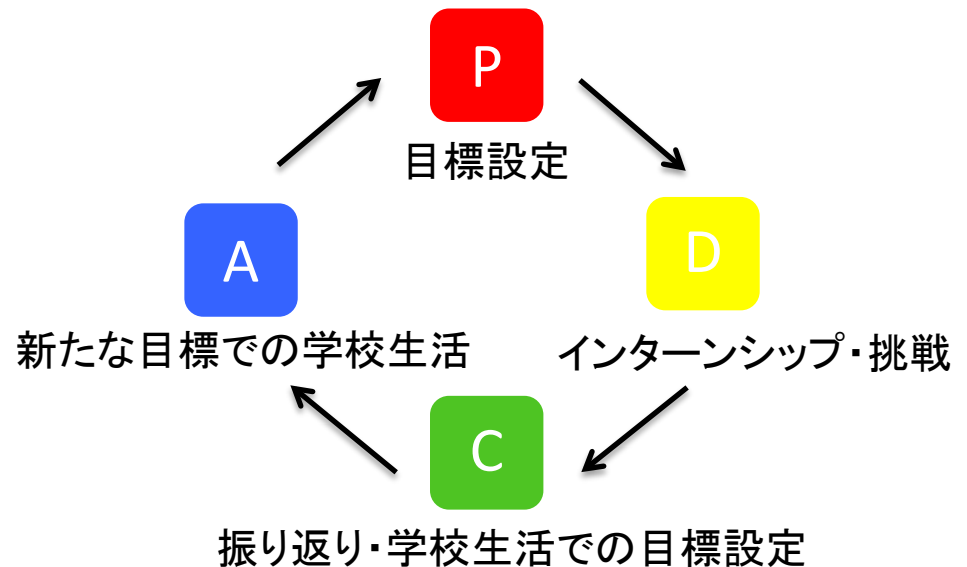
【コーディネート実績】

学校数: 9校



人数: 394名

受入先: 147カ所

スポーツジム、社会福祉協議会、
広告代理店、公共施設、産婦人科、
旅行業、web制作、印刷業、書店、
専門学校、運輸業、ブライダル等



学校単体型インターンシップ詳細

学校	ねらい	内容	事前学習の様子
愛知黎明高校	<p>先行き不透明な時代背景において、未来に学び続け、切り開き、育つ力を育成するため、カリキュラムを一新し、「探求基礎」の科目を設けた。地域や生徒同士の「対話」と「探求」を繰り返し、問題解決能力、つなげる力、学ぶ力、基礎知識、技能の育む1年生向けのプログラム。2年生では、国際探求、地域探求、自然探求、アスリートの4つのコースへ分かれるため、コース選択の際の1つのきっかけとして活用されている。</p>	<p>4月 ・受入先担当者との対話講座 5月 ・感想記入 ・受入先希望調査 ・インタビュー学習 6月 ・エントリーシート記入講座 ・受入先確定、企業調査 ・目標設定 ・マナー講座 7月 ・インターンシップ実施 ・御礼状記入 ・感想記入 10月 ・体験報告会</p>	
誠信高校	<p>普通科就職希望者の2年生が対象。就職前の意識付け、進路の再考、社会人基礎力等に準ずる能力の取得、を目的にプログラムを実施している。インターンシップ中の課題として、受入れ先調べを課している。課題遂行から、担当者のライフキャリアとワークキャリアの側面に触れ、事後学習時に自分キャリア展望を描く。</p>	<p>6月 ・2年生全体向け 「キャリア・進路を考える」講演 ・インターンシップ公募開始 7月 ・事前学習 受入先担当者の講話 8月 ・インターンシップ実施 ・事後学習実施 受入先担当者からの振り返り 9月 ・学年報告会実施</p>	

高校生の体験から見る成長の秘訣

保護者感想

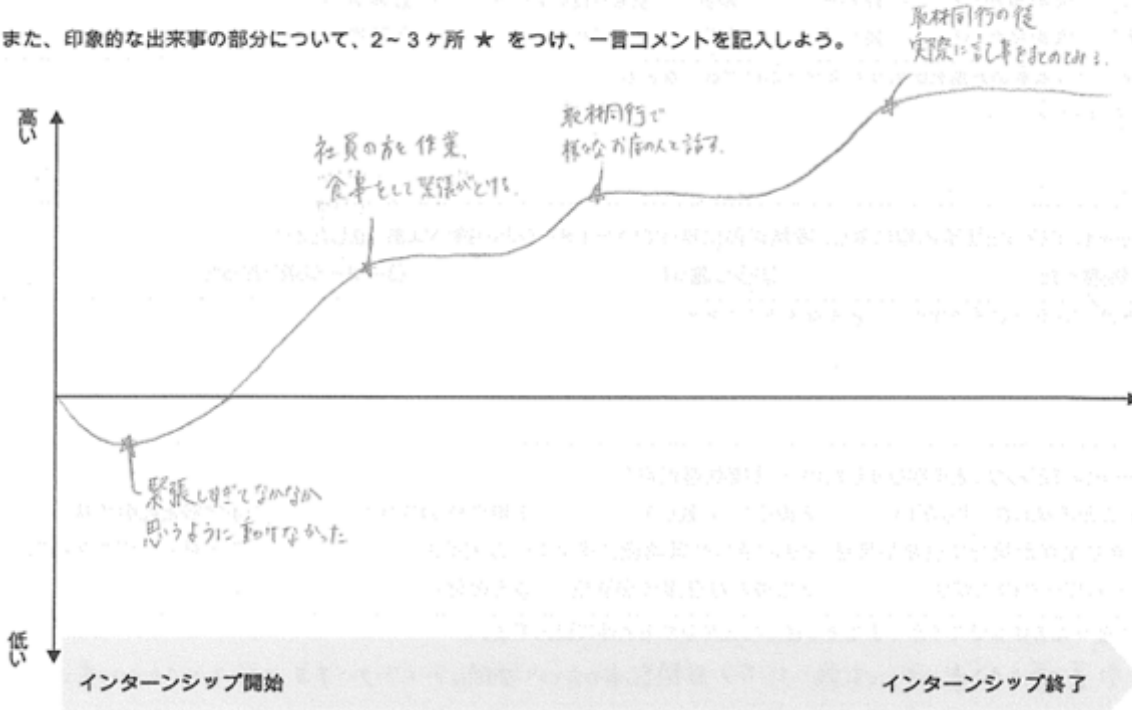
マイチャレ期間中(事前・事後研修含む)の、お子さんのご家庭での様子や、会話などをお聞かせください。

初日は緊張した様子でしたが、職員の方々に親切に接して頂いておかげで充実した5日間を過ごしたようです。家でも体験した事を生き生きと「楽しかった」と話してくれ、将来、二人で結実のある職場に就職できたらいいね」と親子で話し合うきっかけにもなりました。娘の将来のためにも貴重な5日間だったと思います。ありがとうございました。

生徒の感想

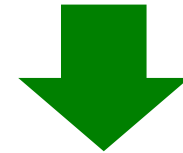
モチベーションとは、人が一定の方向や目標に向かって行動し、それを維持する働きを意味し、「動機づけ」「やる気」とも呼ばれます。このモチベーションの変化をグラフにし、どんな時に「やる気スイッチ」が入ったのか?自分自身を見つめ直してみましょう。

また、印象的な出来事の部分について、2~3ヶ所★をつけ、一言コメントを記入しよう。



成長の秘訣

- ①生徒と受入先との良い関係
- ②生徒と親・教員との良い関係
- ③実施中の挑戦機会の有無
- ④成果物の可視化
目標の振り返り・フィードバック



次のチャレンジへ

インターンシップのコーディネート から見えてきたもの



企業

- ・生徒の様子を知り、印象が変わった
- ・企業、仕事について理解してもらえた
- ・今後の顧客、採用の可能性へつながった

教員

- ・生徒の違う一面を見る事ができた
- ・生徒に勉強と社会の繋がりを感じてもらった
- ・企業、仕事への理解が深まった

保護者

- ・「仕事」についての会話が増えた
- ・学業以外に必要なことが身に付いた
- ・新たな目標ができ、生活に変化があった

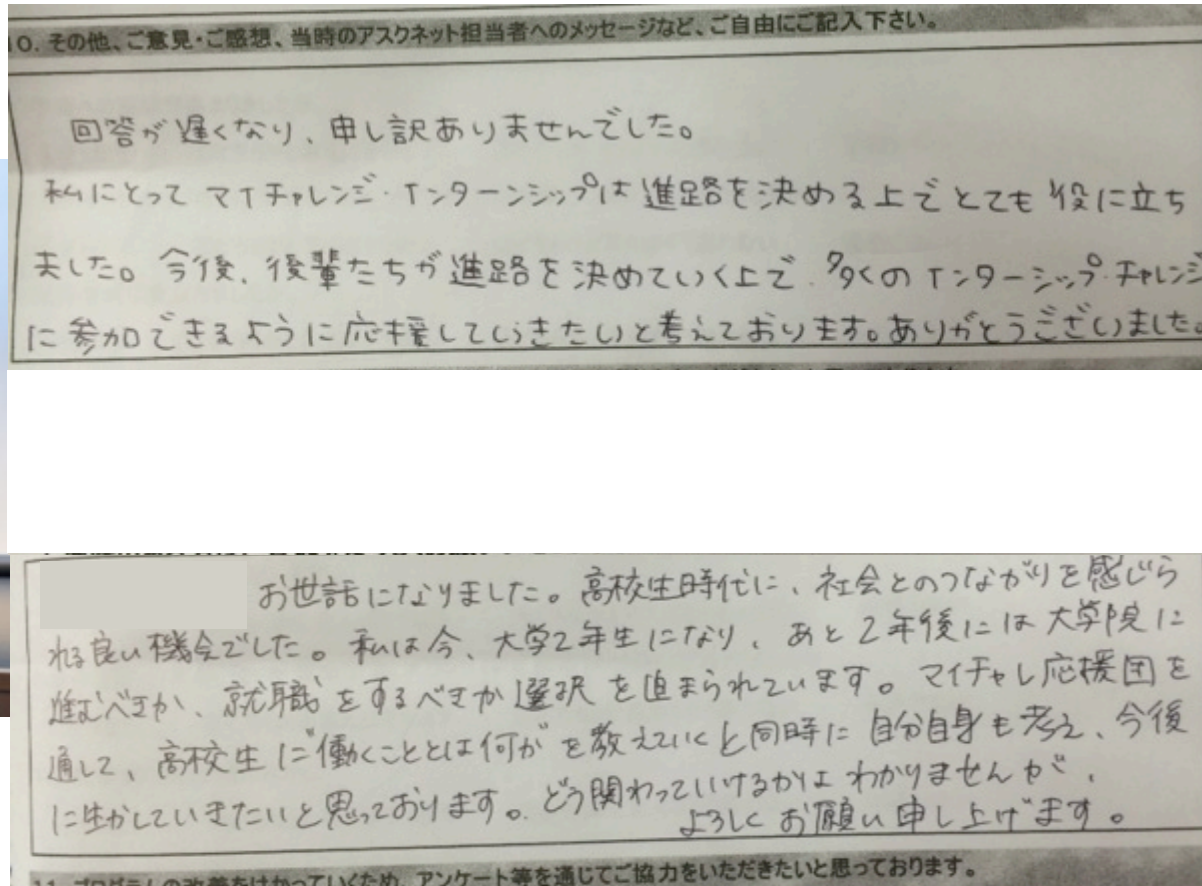
生徒のインターンシップを通じて、周辺の大人もキャリア教育や未来について考える機会となった。また報告会では受入先、教員、保護者、OB・OGが参加し、意見交換の場となっている。
体系的にキャリア教育が普及・啓発される取組みに発展した。



インターンシップのコーディネートから続く物語

インターンシップ参加OB・OGの声

報告会でのOB・OGのディスカッションの様子



現在(平成26年度)高校を卒業した過去の参加生徒への追跡調査を実施。
インターンシップ参加者が後輩を支える仕組みを準備中。





これからの未来をつくるすべての子ども達に
「**出会い**」と「**挑戦**」の機会をつなぐ
キャリア教育コーディネーターが増え、
より豊かな社会になるよう努めていきます。

